

# 写真展「動物たちが見た沖縄戦」

2023年6月20日(火)~6月25日(日) 開催



時間：10時～19時

場所：那覇市民ギャラリー第三展示室(無料)

今、日本人にできることは何か？

○ 戦争が起きれば、犠牲になるのは人間だけではない

現在、起きているウクライナでの戦争でも多くの動物たちが犠牲になっています。

そして、80年前、日本人が経験した戦争でも多くの動物が犠牲となりました。

一般市民として、今ある戦争に対して、直接できることは多くはないかも

知れません。

でも、自らの経験を語ることはできると思います。それは戦後、葛藤し続けてきた日本人だからこそできることであり、また今後、起こりうる戦争の抑止ともなるはずで。

今回、より多くの人に関心をもってもらうために、動物たちの力を借りて、この写真展を行います。人間はいつも動物たちの力を借りっぱなしで情けないですが、動物共生社会が謳われる今だからこそ、彼らが見た戦争の写真は、より多くの人々の心に残るのではと考えています。

## ○ なぜ沖縄戦なのか？

沖縄戦は日本を語る上で欠かすことのできない戦闘です。まず、第一に子供や民間人までも戦闘員として、戦闘に参加しています。少年義勇兵、学徒兵など言うまでもありません。

そして、沖縄を捨て石とした戦略。当初、日本軍は優秀な第九師団、第八十四師団師団を沖縄に派遣する予定でしたが、それは急遽、撤回され、第九師団は台湾へ、第八十四師団は本土防衛に回され、両師団は一度も戦うことなく終戦を迎えました。この誤算による兵力不足こそ、沖縄の悲劇を生んだと考えられます。その兵力を補うため、子供や民間人までもが戦闘員として戦場に送られたからです。彼らを人間とは考えず、捨て石とし、本土を守ろうとした感覚は、現代の日本社会にも通じるところがたくさんあります。そして、その状況の中、動物たちも戦火に巻き込まれていったのです。さらに植物たちも。

今回の写真展をご覧いただければ分かるように、軍馬、軍犬、軍鳩が沖縄戦に参加していました。軍犬は両軍ともに使用し、多くの犬が戦闘で死にました。また、軍馬は日本軍が使用しましたが、現地調達が多く、沖縄の人々の生活に必要な馬が多く使われました。その後は、米軍によって利用され、沖縄戦が終わるまで、馬たちは武器を運ぶために重労働を強いられました。鳩たちは伝書鳩として両軍ともに使用しましたが、情報を運ぶメッセンジャーである彼らは見つかるとうちに撃ち落とされました。どの動物たちも過酷な戦場では病気になるものも多く、また、最終的には人間の

食料となったものも多くいます。そして、沖縄は当時、動物と自然の宝庫だったのです。そこに住んでいた数々の動物たちも戦争で死にました。そして、植物たちも状況は同じでした。

## ○ 戦争体験を継承する機会が減っている今だからこそ

ここ数年、沖縄戦を経験された方への聞き取りを行ったりしましたが、少年義勇兵の方でさえ、もうご高齢で、なかなかお話を聞くことができません。80年過ぎた今、若い世代にもなかなかその戦場での肌感覚を持つことはできません。しかし、戦争が起きれば大切な物、愛する者が失われるという、あたりまえではあるけれど大切なことを伝え続けることは、今の世界情勢を見るにさらに重要性が増していると考えます。その当たり前のことを、写真に映し出された動物たちの表情を通して、伝えたいのです。

## ○ 2025年は戦後80年の節目、もう一度、帯を締めなおす

もう一度、戦争の悲劇や人間の本質というもの見つめ、2025年の戦後80周年に向けて、帯を締めるためにも、この写真展を行いたいです。米国公文書館から百点以上の写真を集め、その中から、さらに厳選して当時の戦場の状況をより伝えているものを展示します。

できるだけ、当時の動物たちの状況が分かるような解説も付けたいと思います。

## ○ なぜ、私はこの写真展を行いたいのか？

2022年2月に祖父が101歳で他界し、その直後にロシアによるウクライナ侵攻が開始しました。祖父からは生前、祖父の戦場体験を聞いており、その影響から、フィリピン等での遺骨収集などに参加し、元兵士の人、遺族の方の話聞く機会がありました。その中で感じたことは、当時の人々も今の人も変わらないということです。起きうる戦争に対して、漠然とした

希望的観測で戦争を考えてしまいます。しかし、いくら防衛費が増えても高射砲で自衛隊が日本に飛んでくるミサイルを100%撃ち落とせることはないのです。必ず、被害が出ます。また戦争は予想外のことの連続です。戦記を読むと、重要な時に部品が壊れたり、電気が止まってしまったりします。ですので、希望的観測ではダメなんだということを、祖父の話から、何度も感じたものでした。この希望的観測をどれだけ減らせるかが、悲劇を繰り返さないことの抑止力になると私は考えています。遺骨収集でお会いした遺族の方々もどれだけ戦後、苦しんできたか。一度、戦争が起きてしまうと、それは孫の代まで苦しむことになるのです。やはり、戦争を引き起こしてはいけないという思いから、この写真展を行いたいのです。

さらに応援いただける方々へ <https://yuima-okinawa.jp/project/detail/1000>

## ○ 今後の展開

2025年戦後80年に向けて、戦争体験を継承していくための市民による展示会やイベントを行っていきます！

## ○ 過去のイベント

2022年12月27日(火)開催

事務所、年齢、国籍、業界、全て不問、真の実力だけを求む！

# 俳優映画祭